

感染症・予防接種レター (第81号)

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会では「感染症・予防接種」に関するレターを毎号の小児保健研究に掲載し、わかりやすい情報を会員にお伝えいたしたいと存じます。ご参考になれば幸いです。

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会

委員長 多屋 馨子	副委員長 岡田 賢司	久保田恵巳	城 青衣	菅原 美絵
津川 毅	並木由美江	東 健一	三沢あき子	渡邊 久美

## 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

### I. はじめに

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において確認され、この新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) の感染は世界に拡大した。世界保健機関 (WHO) は、2020年1月30日、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 (PHEIC)」と宣言し、3月11日、パンデミック (世界的な大流行) と表明し、6月14日時点で、新型コロナウイルス感染症感染者数769万人、死者42万人に及んでいる。

日本国内では、1月16日に初めて患者が報告され、2月1日に指定感染症に指定された。都市部を中心に感染は拡大し (図1)、4月7日、東京都等7都府県に緊急事態宣言が発令され、4月16日、全都道府県へ拡大された。学校は休校となり、就学前教育・保育施設等 (以下、保育所等) も休園や登園自粛が続いていたが、5月25日に緊急事態宣言が解除され、「新しい生活様式」の中で、学校生活が再開されている。2020

年6月時点における知見を踏まえて、概説する。

### II. 概要<sup>1,2)</sup>

#### 1. 感染経路

飛沫感染、接触感染。換気の悪い密閉空間などの環境要因により、咳やくしゃみがなくとも感染する可能性があると考えられている。また、有症状者からの感染伝播が主体であるが、無症状病原体保有者からの感染リスクもある。

#### 2. 潜伏期間

1~14日間 (5日間が最も多い)。発症2日前から感染性があり、発症時から感染性が高いことが市中感染の原因と考えられている。

#### 3. 臨床経過

発熱、呼吸器症状、全身倦怠感などで発症し、感冒様症状が1週間前後持続することが多く、肺炎像が明

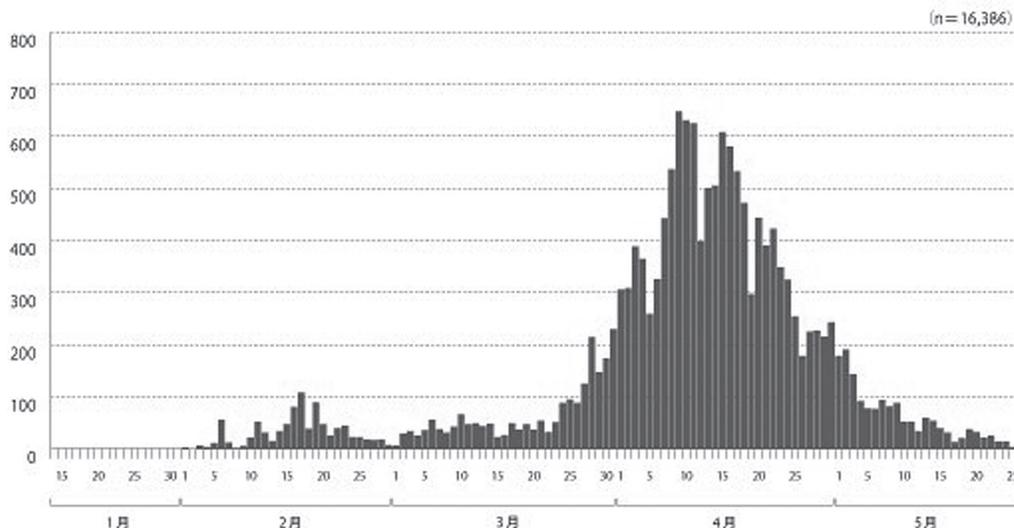


図1 新型コロナウイルス感染症の国内発生動向 (報告日別新規陽性者数)<sup>1)</sup>

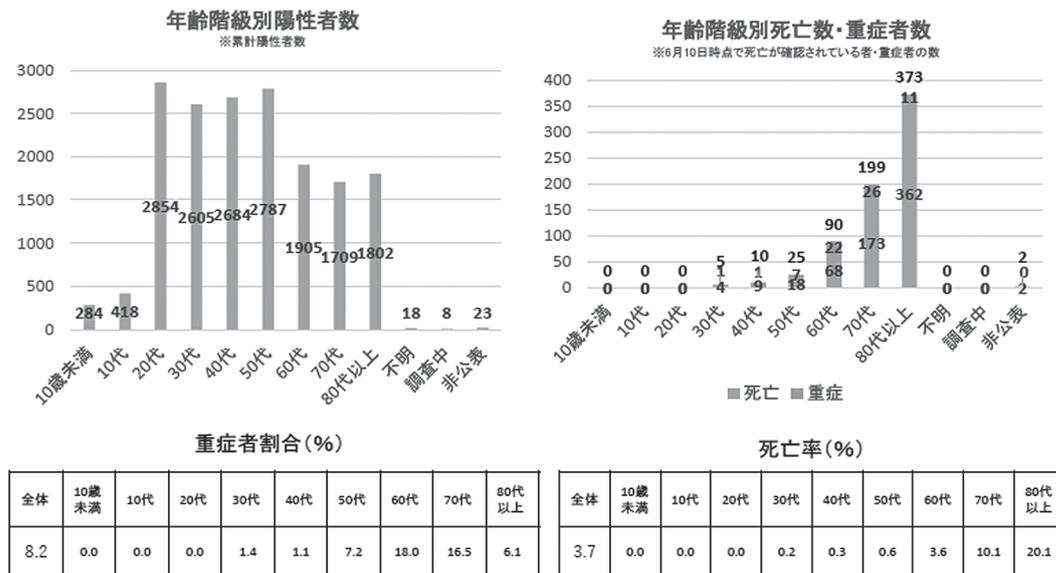


図2 新型コロナウイルス感染症の国内発生動向（年齢別陽性者数，死亡数，重症者数）<sup>3)</sup>

らかになることがある。高齢者や基礎疾患を有する患者においては重症化のリスクがある。

5月27日までの国内陽性者16,386人において，男女比1.2：1，年齢の中央値は49歳（10歳未満1.7%，10代2.3%，20代16.1%，30代15.0%，40代15.5%，50代16.5%，60代12.0%，70代10.8%，80代7.1%，90代以上3.0%），主な症状は発熱75.3%，咳42.7%であり，重篤な肺炎は6.9%であった。

### Ⅲ. 小児の感染

#### 1. 小児の割合

6月10日までの国内累計陽性者数17,097人のうち，10歳未満284人（1.7%），10代418人（2.4%）と小児の割合は少ない（図2）<sup>3)</sup>。諸外国においても，COVID-19患者に占める小児の割合は少なく，米国では18歳未満患者は全体の1.7%，中国では19歳未満患者は全体の2.4%と報告されている<sup>4,5)</sup>。

#### 2. 感染経路<sup>6)</sup>

小児の感染者のほとんどは，その家族内に成人の感染者を認め，家族内感染と考えられている。国内でも，医療機関や高齢者施設内でのクラスター（患者間の関連が認められた集団）感染が多数報告されたが，学校でのクラスターの可能性のある事例は極めて限られている（北九州市の小学校6人，富山県の小学校5人）。

#### 3. 症状・予後

小児では成人と比較すると，発熱や咳などの症状の

表 COVID-19と検査診断された小児と成人の症状  
（米国：2020年2月12日～4月2日）

症状	小児 (<18歳) 291人		成人 (18~64歳) 10,944人	
	No (人)	%	No (人)	%
発熱	163	56	7,794	71
咳	158	54	8,775	80
息切れ	39	13	4,674	43
筋肉痛	66	23	6,713	61
鼻汁	21	7.2	757	6.9
咽頭痛	71	24	3,795	35
頭痛	81	28	6,335	58
悪心・嘔吐	31	11	1,746	16
腹痛	17	5.8	1,329	12
下痢	37	13	3,353	31

頻度が低く（表），入院例も少なく（5.7～20%），ICUへの入室割合も少ない（0.58～2.0%）と報告されている<sup>4)</sup>。国内では，10歳未満，10代において，重症例，死亡例は認められていない<sup>3)</sup>。重症化のリスクとして乳児や基礎疾患を有する児が報告されている<sup>6)</sup>。

#### 4. その他

欧米各国において，COVID-19流行に伴い川崎病様の病態が増加し，重症化していることが報告され<sup>7)</sup>，この病態は Multisystem Inflammatory Syndrome in Children (MIS-C) associated with COVID-19と呼ばれているが，日本においては同様の傾向は認められていない。

新型コロナウイルス感染症対策としての突然の休

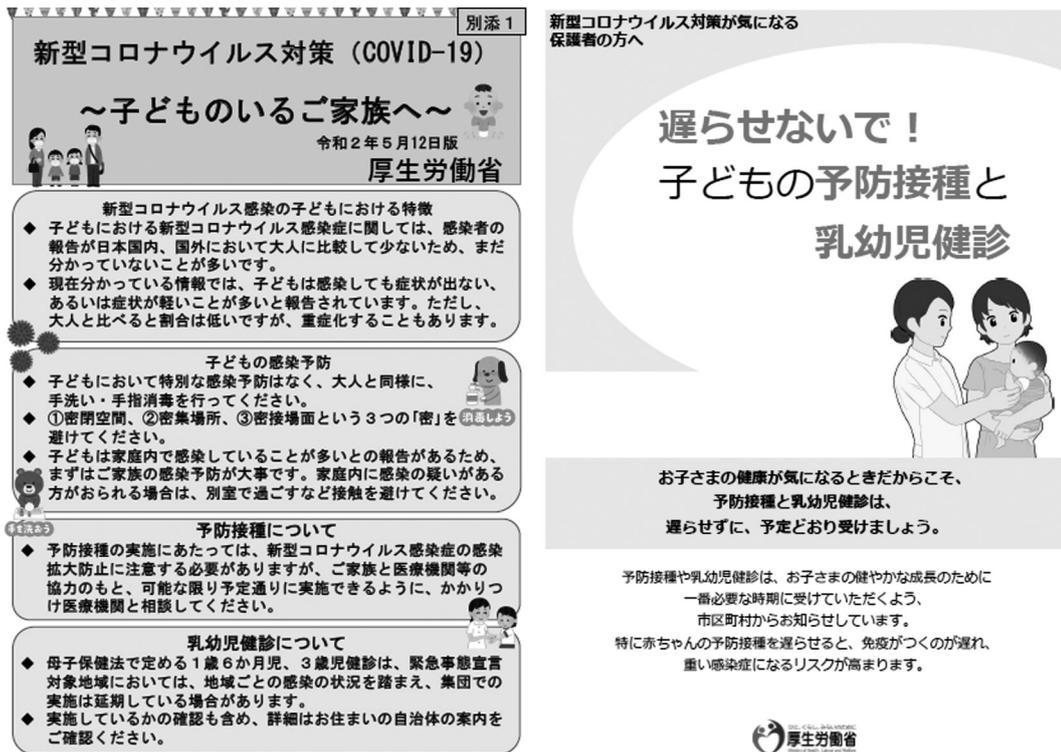


図3 小児関連啓発リーフレット (厚生労働省)

校・休園，外出自粛，緊急事態宣言など，子どもとその家族にとっては心身への大きな負荷となる状況であった。未知の感染症の知見は徐々に蓄積されつつあり，予防接種や乳幼児健診は予定通り受けていくことが大切である（図3）。

今後，新型コロナウイルス感染症の第2波も予想されるが，学校や保育所等の現場では日々の対策をとりつつ<sup>8)</sup>，子どもたちに関連健康被害が発生しないように見守り，子ども，子育て世代，小児医療・小児保健に関わる従事者皆が身体と心の健康を保ちながら，このパンデミックを乗り越えていくことを願う。

文 献

- 1) 国立感染症研究所 感染症疫学センター. “新型コロナウイルス感染症 (COVID-19). IDWR 2020年 第21号” <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2484-idsc/>
- 2) 厚生労働省. “新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療の手引き・第2版 (2020.5.18). 令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 一類感染症等の患者発生時に備えた臨床的対応に関する研究” <https://www.mhlw.go.jp/content/000631552.pdf>

- 3) 厚生労働省. “新型コロナウイルス感染症の発生動向” <https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000639025.pdf> (参照2020-06-15)
- 4) CDC COVID-19 Response Team. Coronavirus disease 2019 in children—United States, February 12–April 2, 2020. *MMWR Weekly*/April 10, 2020/69 : 422-426.
- 5) Jiatong S, Lanqin L, Wenjun L. COVID-19 epidemic : disease characteristics in children. *J Med Virol* 2020 Mar 31. doi : 10.1002/jmv.25807.
- 6) 日本小児科学会. “小児の新型コロナウイルス感染症の診療に関連した論文” [http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content\\_id =334](http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id =334) (参照2020-06-15)
- 7) Riphagen S, Gomez X, Gonzalez-Martinez C, et al. Hyperinflammatory shock in children during COVID-19 pandemic. *Lancet* 2020 ; 395 : 1607-1608.
- 8) 文部科学省. “学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～ (2020.5.22.ver1)” [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/coronavirus/mext\\_00029.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00029.html) (文責：三沢あき子)